



① 研究授業ありがとうございました！

本日、今年度2回目の校内研究授業を行いました。提案して下さった中学年ブロックの先生方、授業して下さった藤井先生、ありがとうございました。今年度から進めているコンバイン型プログラムについて、熱心に考え提案していただいたことで、難しさや課題とともに、学びや可能性を感じる提案をしていただいたと思います。授業をやっていただくことでわかることもたくさんありますね。今後の授業やブロック研究の際にも生かしていただければと思います。ありがとうございました。



当日のオーダーシートと併せて、1年生の先生方がとってくださった記録を以下の場所に入れております。併せてご覧ください。

「01 校務」⇒「07 研究」⇒「令和4年」⇒「研究授業」⇒「3年授業（0621）」

② 講師の先生のお話

協議会后、校長室でのお話を共有させていただきます。

● 授業改善について

Q 今日の授業を改善するとしたら、環境をそろえる、条件を増やすなど、視点を明確にした方がよいでしょうか？

A そうですね。環境がそろっていないと、比較は難しいと思いますし、その結果には信憑性があるとは言いづらくなってしまいます。どうしても場を2つにするのであれば、それをつなげる工夫をしましょう。

とはいえ、前時までに指導要領の内容はクリアしているので、あくまで発展としてとらえ進めるのもありかと思います。発展的な学習であると考えれば環境を作

る活動もありだと思います。その場合は既習の学びを生かせるようにしましょう。「定性と定量」という視点で考えることも大事だと思います。

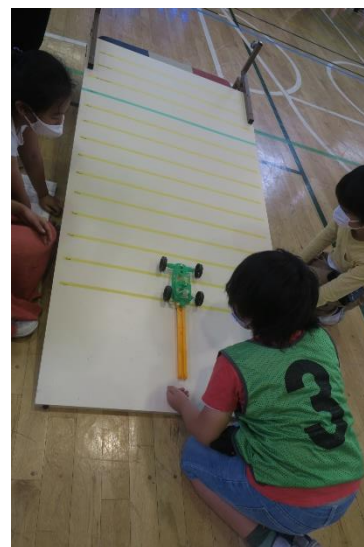
例えば、「遠くまで進むゴムカーをつくろう」という設定もできるかもしれません。ただ、子供によっては遠くまでとどけば何でもよいとなりがちなので、止める位置を決めて、目的意識を持って取り組むようにすると思考が深まるのでよいと思います。



Q 予想や仮説を設定する際に難しさを感じています。塾などで先に学んでいる子が、予想や結果をすぐに言うようなこともあり、深い学びにつながりにくいと感じることがあります。調べたらすぐに知識を得られるという現代の環境もあると思いますが、何か改善できそうな工夫などありますか？

A 具体的な案はすぐに出てきませんが、いろいろやってみるとよいと思います。例えば、発芽の条件をもとに、どの種でも同じような結果になるのか様々な種類の種を用意して試してみるとか……。私が現場にいた時は、メダカを袋に入れて一人ずつ渡して普段からよく観察できるようにしました。つまり、学びを身近にするということが大事なのかもしれません。

テストでは、メダカのオスとメスがわかることを問うような問題になっていますが、知識として大事なものは、メダカのオスとメスがわかることではないですね。同じ種類の魚でもオスとメスによって体の特徴が違う魚がいるということを知ることが大事なわけです。そこから発展的に考えたり調べたりする子を育てていくと、メダカ以外の魚でもそのような種類の魚がいること、魚でも全く違うものもいることなどを引き続き学ぶ姿につながるかもしれません。



③ 次回研究全体会について

次回研究全体会は7月20日（水）に行います。1学期2つの研究授業を提案していただいたことで、コンバイン型プログラムの特徴が少しずつ見えてきたと思います。それを受けてどのようなプログラムを作っていくと、より学びが深まりそうか、みんなで話し合い計画していく時間であればと思います。ご協力よろしくお願ひします。